

》商工会議所活用レシピ

FILE 02

10年先を生き残るために、
産学連携で基盤技術を磨いています



中部冷間株式会社
代表取締役
菅沼 友章 さん

弊社は冷間鍛造の専門企業です。主に自動車部品を扱っています。取引先は自動車に大きくかたよらないよう医療などほかの分野にも注目していますが、なかなか新規参入は難しいですね。昨年後半から目に見えて業況に変化があり正直大変です。しかし、「冷間鍛造」という基盤技術に立ち戻り、この技術を磨いていけば道は開けると思います。冷間鍛造も量の追求から精度の向上やより複合的な付加価値が求められる時代になってきています。

シーズを提供いただければ、弊社での可能性も検討できますが、公開されたときは、既にパトロン（協力企業）が決まっている場合がほとんど。どうシーズを探り当てるかが大変です。中小企業は、大企業と比較して、資金や人手など乏しい資源の中でやり繰りで、出来ることが限られます。テーマが大きすぎてダメ。前人未到で最初の一步が小さいことを少ない資本で繋ぎながらどう育てていくか。企業判断も必要になります。

シーズを検討し、その中から選んだ研究者や大学もご紹介いただきました。これは、大変助かりました。コネもなく、そうそうコンタクトがとれないですから。

地元密着の商工会議所ならだとはどうか、中部圏の相手先の紹介（共同研究では距離も重要なんです）、費用面で苦しい私どものような小さな会社の立場で出会うの場をプロデュースしていただけるのもいいですね。

新技術開発のひとつの糸口が産学連携。弊社独自の技術による開発委託の場合、先方と「研究課題が一致すること」はハードルが高いですね。大学から

最初、独力で連携先を探すのはとても大変でした。その後、岡崎商工会議所内にある「岡崎ものづくり推進協議会」の「産学官連携相談窓口」の存在を知り、複数の大学や研究機関の

大学の研究シーズは、必ずしも産業界のニーズと一致しない場合があります。また、共同研究は時間がかかります。しかし、10年後の日本で生き残るためには常にチャレンジしていかねばならないと思います。

担当者からひと言



岡崎商工会議所（愛知県）
経営指導員
神谷 敏充

当所は、平成17年6月に岡崎市と協力して「岡崎ものづくり推進協議会」を設立。技術相談や大学・公的研究機関の研究シーズの紹介など、産学官を橋渡しし、地域製造業のより一層の活性化を図る事業を行っています。

菅沼社長は、日ごろから積極的に事業を活用いただき、一歩先を見据え、危機感を持って経営されています。特に独自技術の革新のために、常に研究開発と情報収集の努力をなさっています。

何気ない製品やアイデアに触れたときのひらめき・発想も優れておられます。今後1個でも2個でも経営のヒントをご提供できるように応援したいと思います。